

吉山祝廣

よしやま・しゅくひろ

画家

経歴

生:大正5年(1916年)、福山市西霞町生まれ

没:平成13年(2001年)5月13日、享年86歳

| | | |
|--------------|-----|------------------------------|
| 昭和8年(1933年) | 17歳 | 広島県立福山誠之館中学校卒業 |
| 昭和8年(1933年) | 17歳 | 日本美術学校入学 |
| — | — | 家業のため断筆 |
| — | — | 野村守夫(二科展理事、芸術院恩賜賞、1979年没)に師事 |
| 昭和41年(1966年) | 50歳 | 県展初出品入選、以降連続入選 |
| 昭和45年(1970年) | 54歳 | 二科展初出品初入選、以降連続入選20回 |
| 昭和46年(1971年) | 55歳 | 二科展広島受賞 |
| 昭和47年(1972年) | 56歳 | 福山市美展特選 |
| 昭和48年(1973年) | 57歳 | 福山市美展特選 |
| 昭和49年(1974年) | 58歳 | 二科展広島受賞 |
| 昭和49年(1974年) | 58歳 | 福山市美展特選 |
| 昭和49年(1974年) | 58歳 | 「舞妓」県展受賞 |
| 昭和49年(1974年) | 58歳 | イマキ画廊個展 |
| 昭和50年(1975年) | 59歳 | 「牛車は行く」広島県展受賞 |
| 昭和50年(1975年) | 59歳 | 霞画廊個展 |
| 昭和50年(1975年) | 59歳 | 外遊 |
| 昭和51年(1976年) | 60歳 | 「斉王列」広島県展受賞 |
| 昭和52年(1977年) | 61歳 | 福山教育委員会買上 |
| 昭和54年(1979年) | 63歳 | ワタナベ画廊にて個展2回 |
| 昭和55年(1980年) | 64歳 | 二科展広島県知事賞受賞 |
| 昭和55年(1980年) | 64歳 | 旧官幣大社首座京都下鴨神社100号奉納 |
| 昭和57年(1982年) | 65歳 | 二科展広島県知事賞受賞 |

| | | |
|--------------|-----|-----------------|
| 昭和61年(1986年) | 70歳 | 天満屋個展 |
| 昭和62年(1987年) | 71歳 | 二科展広島二科賞受賞 |
| 昭和63年(1988年) | 72歳 | 広島美術館県展40年の歩み出品 |
| 平成元年(1989年) | 73歳 | 尾道美術館海島博出品 |
| 平成2年(1990年) | 74歳 | 広島県美展・福山市美展審査員 |

生い立ちと学業、業績

福山市で最も著名な吉山タンス店は、慶応3年(1867年)の創業で、由緒あるノレンを誇る老舗である。3代目の店主吉山祝広氏は、今年45才の働き盛り。その祖先は平家の落武者とし沼隈郡山南村平家谷に棲みついた一族で、祖父の代に福山に出て家具商を営むに至ったものである。氏は誠之館を卒業後、日本美術学校に学んだので、その美に対する感性は非常に鋭く、同店が製作する調度品、和洋家具が常に時代に適するデザインで現代的センスが溢れていることも当然と肯かれる。

氏の養嗣子恒敏氏は法政大学経済科に学ぶ秀才。また長女京子さんは東京女子美術学校を卒業、福山地方の女性洋画家だけで組織する美術団体マチオラに属し、関西独立展に2回、広島県美術展に1回入選している。こうした知性一家は、伝統的技術を保持しつつ木工業界に新風をもたらす意欲をもって経営されている。(福山市西霞町、趣味は商店建築と美術の鑑賞) (出典1)

出典1:『政治産業文化備後総合名鑑』、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年9月

2005年8月18日追加●2006年5月30日更新:タイトル、連絡先(削除)●2006年8月11日更新:写真追加、本文追加●2008年8月14日更新:経歴●2010年6月14日更新:レイアウト●